

長岡あーかいぶす 第 12 号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

<http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>

歴史公文書は語る(5)

長岡教育放送局の台本

昭和 28 年 (1953) 3 月 3 日、中島小学校内にスタジオを置き、長岡教育放送局 (NEB) は開局しました。国内唯一の教育専門の FM ラジオ局として全国の教育関係者から注目され、市当局や市議会の後押しと市内小中学校の協力を得て、急速に放送設備が整い、番組内容の充実が進みました。

昭和 30 年 10 月、市庁舎新築落成 (現柳原分庁舎) と同時に、その 5 階にスタジオを移します。以来、昭和 52 年 4 月 1 日の閉局まで、市内 50 余の小中学校にむけて電波を送り続けたのです。

長岡教育放送局資料は、昭和 28 年度から同 51 年度までの放送台本など 91 点で構成されています。台本は小学校低・中・高学年用と中学校用に分かれており、童話や昔話、長岡を題材にしたもの、中学生向けには古典作品や進路に関するものまで、1,840 点余の作品が収められています。市内各校が、年に 1 回以上は必ず番組放送を担当することになっていたのです。キャストとして出演した経験のある方もいるのではないのでしょうか。



▲マイクの前に立つ子どもたち
(『長岡教育放送局記念誌』)

発表練習を通して、学習意欲の向上や郷土への理解が得られたこと、また、ラジオから流れる他校の発表を聞き、親近感や一体感が得られたことなど、子どもたちにとって、教育放送の果たした役割は非常に大きかったといえるでしょう。



▲長岡教育放送局の放送台本

出演者が市内小中学生なら、台本作りや音響効果・演技指導は全て教職員が担当しました。戊辰戦争を題材にした台本「松風にほえる」から一場面を抜き出してみましよう。戦禍を眼前にした三島億二郎と藩士たちの会話です。

藩士 1	商業と工業？
三島	さよう。そうしてわれわれもそれに参加する。
藩士 2	え？ われわれ藩士も？
三島	さよう。
藩士 3	ばかな、侍たるものが。
藩士 1	三島殿、冗談でござろう。
三島	いや、世の中は変わる。侍も町人もない。みんなが心をあわせて産業をおこすのじゃ。

小学校用では「互尊文庫の見学」「学校めぐり」など、他にも多くのオリジナル作品を生み出した長岡教育放送局。演技指導メモがこまかく書き込まれた台本は、戦後の長岡の教育史をいきいきと物語る歴史公文書です。 (桜井奈穂子)

【参考文献】

- ・『長岡教育放送局記念誌～閉局にあたって～』(長岡市教育委員会、昭和 52 年)
- ・脇屋雄介「日本初の FM 放送局は長岡にあったー長岡教育放送局の歴史をたどってー」(『長岡郷土史』第 37 号、平成 12 年)

文書の虫

～江戸・明治時代の人びとと花火～

長岡の人びとが残した記録の中に、花火にまつわる記事を見ることができます。

旧長岡藩士・小川當知が江戸時代の長岡のすがたを絵と文で綴って、明治9年(1876)に編集した「懐旧歳記」には、参勤交代の勤めを終え、江戸から長岡へ帰る藩士が買い求めた土産が記されています。その中には茶・団扇・錦絵・猪口とともに、線香花火も含まれています。

また、蠟座稲荷(呉服町)の毎年7月18日の宵宮(前夜祭)と8月15日の十五夜で興行された草花火や、3月下旬から5月頃に藩主臨席で行われた中島での炮術演習で昼の相図として花火が上げられたことが記されています。花火には赤竜・白竜・時雨・火乱星・銀河星・雨後の月・飛蝶火・火柳といった名前が付けられていたようです。小川當知は、道行く人びとが昼の花火を見上げる絵を残しています(右上図)。

時代は移り変わり、明治9年に長生橋が架けられました。絵師・片山翠谷(二代)の日記には、同12年9月14・15日、千手八幡宮の祭の夜に長生橋の下で花火見物をしたことが記されています。

長岡領北組割元で栖吉村庄屋も兼務した加津

●資料保存こぼればなし(4)

歴史資料を保存し未来につないでいくことは、とても難しいことです。文書資料室では、平成23年11月26日に「歴史資料保存講座～大切な史料を未来に伝えるために～」を開催。(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団の三ツ井朋子さんを講師に迎え、歴史資料が傷む原因とそれを防ぐ方法などについて伺いました。参加者は71名。

文書資料室では、歴史資料の保存について常時相談を受け付けています。何かお困りのことがあればお気軽にご相談ください。(石井順子)

●災害アーカイブス資料整理 in きおくみらい

文書資料室は、市内に開設された東日本大震災の避難所の資料を収集しました。掲示物・配布チラシ・写真などです。平成23年12月10日、この災害アーカイブスの新たな資料群の整理作業を長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」で、長岡市資料整理ボランティアの皆さんと一緒に行いました。



▲西神田側から内川(柿川)を隔てた中島に設けられた三棟の米蔵を見る図(「懐旧雑誌」中、文書資料室蔵)。打ち上げられた屋の合図の花火(画面左上)は、黄色に彩色されています。

保沢村の鈴木訥叟(とっそう)は、たくさんの日記を残しており、花火の記事も見えます。明治17年9月15日、長生橋の東で打ち上げられた花火が加津保沢村からも見えたこと。翌日は雨降りにもかかわらず、夜も打ち上げの音が聞こえたこと。同25年9月14日、宿泊していた神田町の宿から長生橋の西に上がる花火を観覧したこと。同26年9月15日、長生橋のあたりで昼夜にわたって打ち上げられる花火は数百であったということなどです。

江戸・明治時代の長岡の人びとも花火に心を躍らせていたようです。(小林良子)



ボランティアの皆さんにとって、避難所資料の整理は初めての体験でしたが、中越大震災の被災資料を整理してきた経験を活かして、ダンボール箱1箱分・57点の目録を作成しました。今後もボランティアの皆さんの協力を得ながら、避難所資料を後世に伝えるため、整理等の活動を続けていきたいと考えています。(田中祐子)

阿部 信成

1802.4.1-1860.6.5

蔵王の安禅寺に「安禅寺御用記」（文書資料室寄託）と呼ばれる江戸時代の記録が伝わっています。この「安禅寺御用記」を編集したのが、蔵王代官・阿部信成です。阿部は晩年に自伝「阿部家系譜録」（個人蔵、長岡市史双書No.50 に収録）を編集し、蔵王代官就任までの経歴をまとめています。

阿部信成は、享和2年(1802)4月1日に蒲原郡末宝村の枝村・稲島村（長岡市中之島地域）に生まれました。幼名は庄次郎。幼い頃から、農業の休日、昼寝休み、「暮六時より四ツ九ツ時」（午後6時から午後10時・午前零時）まで、時間を惜しんで勉学に励みました。

しかし、こうした好学ぶりを身分不相応として、父親は認めず、論語の素読を一切禁止しました。そのため許された手習いを中心に勉学を続け、禁止された素読は内緒で行い、懐に入れて持ち運んだ本を垣根や物陰に隠してから帰宅しました。

文政4年(1821)11月、成長した阿部は勉学の成果を活かそうと、知人を頼って江戸の与板藩主・井伊家の家老宅に奉公します。父親の説得を受け入れて、故郷へ帰り、一時、農業に従事しますが、文政11年6月、実家を離れ、京・伊勢を経由して、再び江戸へ向います。江戸では兄・六之助の縁を頼って寛永寺の「親方部屋」に勤めることに成功。六之助は、草津温泉に湯治へ赴いた際に寛永寺塔頭・龍王院の住職と西川庄五郎という人物と同宿になりました。西川は、寛永寺執当・護国院の弟でした。その縁を頼ったのです。

阿部は名字帯刀を許され、寛永寺の寺侍の身分となりますが、再び父親の願いを容れて帰郷します。しかし、兼ねてよりの「出世之志願」を押さえることができず、三度、江戸へ向うことを決意します。天保3年(1832)9月、江戸へ出立。江戸城に登城できる旗本くらいには出世したいという志から、道中で「城之助」と改名しました。

江戸では、以前世話になった西川家に再び寄寓します。そして、寛永寺塔頭・護国院の住職に相談して機会をうかがい、同年12月、大保福寺（千駄木）の侍役見習として奉公することができました。誠実に勤務し、周囲から「何事も城之助でなくてはならぬ」と評価されたと自伝に記しています。天保4年2月からは、護国院の侍役として勤務。ここでも寝食を惜しんで勤めました。

天保5年9月、日光参詣を予定していた阿部は、



▲阿部信成の署名と花押（「安禅寺御用記」序文）

寛永寺執当・龍王院から呼び出しを受けます。用向きの内容は、越後国の蔵王権現領の収納取立方・領内取締役に任命するというものでした。勇躍してこれを受け入れ、故郷へ錦を飾る気持ちで赴任。後に蔵王代官となります。

蔵王権現を管掌する安禅寺は、寛永寺の末寺です。そのため、蔵王権現の現地支配は、寛永寺から派遣された蔵王代官により行われました。阿部は、文政地震で破損した社堂の再建、長岡船道との訴訟への対応などの職務を遂行しています。

弘化2年(1845)4月、阿部は「安禅寺御用記」の編集を開始します。蔵王権現に伝わる文書資料を年代順に並べ、その索引も作成しました。文書資料の多くが災害で失われ、残っているものも未整理でした。こうした記録の不備が、蔵王権現の領政の乱れにつながると考えたからです。現代の文書管理につながる感覚を持っていたのです。

阿部は、安政2年(1855)に蔵王代官を退役します。万延元年(1860)6月5日に江戸で死去。自伝は子孫に大切に伝えられ、編集した「安禅寺御用記」は長岡の歴史をひも解くための貴重な歴史資料として活用されています。（田中洋史）

●『山本五十六の書簡』を再版しました！



品切れだった長岡市史双書 No. 45『山本五十六の書簡—長岡市立中央図書館文書資料室所蔵資料を中心にして—』を再版しました。頒布価格1,500円。B5判108P。この機会にぜひお求めください！！

①



②



安禅寺文書「御用記」より

クイズのヒント

- ① 男性のかぶりもの
- ② 日照りの時に行われました

古文書クイズ 十二
くちよつと一息く

読み方と住所・氏名・電話番号を、葉書・FAX・メールで文書資料室へお送りください。平成24年8月末日必着。全問正解者の中から抽選で5名の方に粗品を差し上げます。

【前回の答え】①角力興行 ②苗字帯刀

《新たに公開した所蔵資料一覧》

※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・長岡市内書店ブックカバー（現代、18点、丸山雄二氏寄贈）
- ・古志郡滝谷村細貝家資料（近世～現代、120点、細貝洋一氏寄贈）
- ・古志郡宮路村長谷川家蔵書（近世・近代、61点、長谷川トモ子氏寄贈）
- ・古志郡上前島村庄屋青柳家文書（追加）（近世・近代、52点、青柳光昭氏寄贈）
- ・新潟県古志郡上組村勢要覧（近代、1点、江口範子氏寄贈）
- ・第一大津尋常高等小学校関係資料（近代・現代、3点、田中千代氏寄贈）
- ・三島郡上条村西山家文書（近世、8点、西山清四郎氏寄贈）
- ・映画『米百俵 小林虎三郎の天命』関係資料（現代、1点、山崎祐吉氏寄贈）
- ・米山家資料（近代、2点、米山三郎氏寄贈）
- ・古志郡撰田屋村川上家文書（追加）（現代、3点、川上洸氏寄贈）
- ・『祖父 小金井良精の記』（星新一の署名入り）（現代、1点、富沢敏一氏寄贈）
- ・栃尾鉄道長岡鉄道廃止記念乗車券・上越新幹線開業記念入場券（現代、3点、大平みつ子氏寄贈）
- ・栃尾菅畑五十嵐家資料（『大江戸図説集覧』他）（近世・近代、20点、五十嵐清一氏寄贈）
- ・片山翠谷「北越雪中実景」（近代、1点、片山恵美子氏寄贈）

●川口地域の歴史公文書を整理

平成22年3月31日に合併した旧川口町役場の歴史公文書整理作業が終了しました。総数435点、ダンボール箱にして67箱の資料を整理・保管することができました。

中越大震災では震度7を記録した川口地域。震災関連の資料が多いのはもちろんですが、他にも、信濃川と魚野川の合流地点であることから水防関係の資料が多いこと、また、旧北魚沼郡市町村や小千谷市との深いつながりがわかる資料が多いことも特徴といえます。

合併市町村の歴史公文書整理作業は、平成19年度の与板支所を皮切りに、この5年間で10市町村すべてが終了しました。各地域それぞれの歴史や市町村政を物語る特色ある資料群を、長岡市の財産としてどのように位置付け、活用していくかを検討中です。（桜井奈穂子）

《編集後記》▽年度末は長岡市史双書の編集作業に追われます。今年も赤色のボールペンが手放せない日々が続きました。「長岡あーかいぶす」とあわせて、出来上がりの感想を文書資料室へお聞かせ下さい。（田中洋史）▽5年間、合併市町村の歴史公文書整理を担当しました。各支所へ出掛け、長い所では半年も整理作業のためにお世話になりました。ご協力いただいた皆様に感謝しています。ありがとうございました。（桜井奈穂子）

平成24年3月31日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

スタッフ：石井順子、田中洋史、小林良子、桜井奈穂子

田中祐子

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20

（長岡市立互尊文庫2階）

TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754

E-mail: monjo@nct9.ne.jp